

受験番号						
------	--	--	--	--	--	--

午前部

登録販売者試験

(平成22年 9月 9日実施)

試験問題

医薬品に共通する特性と基本的な知識・・・ 問 1 ～ 問 20
 主な医薬品とその作用・・・・・・・・・・・・ 問21 ～ 問 60

注意事項

- 試験開始のアナウンスがあるまで、問題を開かないこと。
 - 試験監督員のアナウンスにより、問題用紙の表紙に受験番号を記入するとともに、解答用紙に氏名及び受験番号（6桁）を記入すること。
 (注) ①受験番号は、算用数字で記入すること。
 ②解答用紙の「受験番号記入欄」には、受験番号に対応した数字をマークすること。
 - 問題用紙は、表紙を除いて30ページある。試験開始後、乱丁等がないかを確認し、異常があるときは速やかに試験監督員に申し出ること。
 - 各問題について、答えを一つ選び、その番号のカッコの中全体をHBより濃い黒鉛筆で濃くぬりつぶすこと。(下記(例)参照)
- (例)【問150】
 次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。
- | | | | |
|---|---|---|---|
| | a | b | c |
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |
- a. $1+1=2$ である。
 b. $5-3=3$ である。
 c. $1\times 2=2$ である。
- aは正、bは誤、cは正であるから、正しい答えは「1」となる。
 よって、問題番号に対応した解答用紙の番号「150」欄の「1」を塗りつぶすこと。
- | |
|-------|
| 150 |
| [1] |
| [2] |
| [3] |
| [4] |
| [5] |

→

150
■
[2]
[3]
[4]
[5]
- なお、答えを修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないように完全に消すこと。鉛筆のあとが残った場合は、修正または解答したことにならないから注意すること。
- 解答用紙の<注意事項>もよく読んでおくこと。

医薬品に共通する特性と基本的な知識

【問 1】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品は、本来、人体にとって異物であるため、必ずしも期待する有益な効果のみをもたらすとは限らず、好ましくない反応を生じる場合もある。
- b. 一般用医薬品であっても医療用医薬品と同様に、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。
- c. 医薬品の中には、人体に直接使用されないものであっても、人の健康に影響を及ぼすおそれがあるものもある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	正	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 2】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであり、薬事法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等があってはならない旨を定めている。
- b. 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し使用するものであるため、保健衛生上のリスクに注意する必要はない。
- c. 登録販売者は、医薬品の有効性、安全性等に関する新たな情報の付加に円滑に対応できるよう常に新しい情報の把握に努める必要がある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	正	誤	誤
5	誤	誤	正

【問 3】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. アレルゲンとなりえる医薬品の添加物としては、黄色 4 号（タートラジン）、カゼイン、亜硫酸塩等が知られている。
- b. アレルギーは、内服薬だけで発生するものであり、外用薬で引き起こされることはない。
- c. 医薬品の中には、鶏卵や牛乳等を原材料として作られているものがあるため、それらに対するアレルギーがある人では使用を避けなければならない場合もある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 4】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品の服用によって、比較的よく見られる眠気や口渇等は、副作用に含まれない。
- b. 医薬品の副作用は、血液や内臓機能への影響等のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。
- c. 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用が、その疾病に対して薬効をもたらす一方、別の疾病に対しては症状を悪化させたり、治療が妨げられたりすることもある。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問5】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 薬を飲み忘れたら、次に飲むときに忘れた分も含め2回分飲んだ方がよい。
- b. 一般用医薬品にも、習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがある。
- c. 登録販売者は、必要以上の大量購入や頻回購入をしようとする者には慎重に対処する必要がある。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問6】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 相互作用には、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- b. 医薬品の相互作用とは、複数の医薬品を併用したときに、医薬品の作用が増強する場合のことをいうのであって、作用が減弱する場合には相互作用とはいわない。
- c. 相互作用を回避するには、通常、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品と相互作用を生じるおそれのある医薬品や食品の摂取を控えなければならない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 7】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. かせ薬と解熱鎮痛薬では、成分や作用が重複することが多いため、通常、併用は避けることとされている。
- b. 登録販売者は、購入者等が医薬品を使用する前に添付文書や製品表示を必ず読むなどの適切な行動がとられ、その適正な使用が図られるよう、購入者の理解力や医薬品を使用する状況等に即して説明がなされるべきである。
- c. 医薬品と食品との相互作用は、専ら飲み薬（内服薬）の使用に際して注意を要する。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	正	正	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 8】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 生薬成分等については、医薬品的な効能効果が標榜^{ほう}又は暗示されていなければ、食品（ハーブ等）として流通可能なものがある。
- b. 医薬品を服用後、代謝によって産生する物質（代謝産物）に薬効があるものはない。
- c. 酒類（アルコール）は、医薬品の吸収や代謝に影響を与えることがある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 9】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品の使用上の注意等において、乳児、幼児、小児という場合には、おおよその目安として、乳児は1歳未満、幼児は7歳未満及び小児は15歳未満の年齢区分が用いられている。
- b. 一般用医薬品を小児に服用させる場合には、どんな医薬品であっても、成人用の服用量を半分にして服用させることができる。
- c. 医薬品によっては、形状等が小児向けに作られていないため小児に対して使用しないことなどの注意を促している場合もある。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 10】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 高齢者は、肝臓や腎臓の機能が低下していることがあり、その場合には一般に医薬品の作用が弱く現れやすい。
- b. 高齢者は、生理機能の衰えのほか、^{のど}喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている場合があり、内服薬を使用する際に^{のど}喉に詰まらせやすい。
- c. 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

	a	b	c
1	誤	誤	誤
2	誤	正	正
3	正	誤	正
4	正	正	誤
5	正	正	正

【問 1 1】

次の a～c の妊婦、妊娠していると思われる女性及び授乳婦の医薬品使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えてビタミンA含有製剤を摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- b. 胎盤には、胎児の血液と母胎の血液とが混ざらない仕組みとして、胎盤関門がある。
- c. 授乳婦が医薬品を使用する場合、通常の用量であれば、乳汁中に移行した医薬品の成分が乳幼児に好ましくない影響を与えることはない。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	正	正	誤

【問 1 2】

次の a～c の医療機関で治療を受けている人から一般用医薬品の使用に関する相談を受けた場合、登録販売者が行う対応に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 糖尿病の治療を受けている人が、塩酸プソイドエフェドリンを含む医薬品を使用した場合、糖尿病を悪化させるおそれがあることを説明する。
- b. 心臓病の治療を受けている人が、芍薬甘草湯しゃくやくかんぞうとうを使用した場合、除脈又は頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあることを説明する。
- c. 一般用医薬品を服用している間は、医療機関・薬局で交付された医療用医薬品の服用を中断するよう説明する。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	正
3	正	正	誤
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 1 3】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. プラセボ効果とは、医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをいう。
- b. プラセボ効果により、使用者にとって不都合な反応がもたらされることはない。
- c. プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく客観的に測定可能な変化として現れることもあるが、不確実であり、それを目的として医薬品が使用されるべきではない。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	正	正	誤

【問 1 4】

次の a～c の医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 使用期限は、開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。
- b. 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されているので、光（紫外線）等による品質の劣化（変質・変敗）を起こさない。
- c. 適切な保管・陳列をすれば、経時変化による品質の劣化は起こらない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	誤	誤

【問15】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. WHO（世界保健機関）によればセルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」こととされている。
- b. 専門家による適切なアドバイスの下、身近にある一般用医薬品を利用して軽度な疾病に伴う症状の改善等を図ることをセルフメディケーションという。
- c. 一般用医薬品の利用のほか、生活習慣の改善を含めた健康維持・増進全般についてセルフメディケーションという場合もある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	誤	誤

【問16】

次のa～cの一般用医薬品の役割に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 軽度な疾病に伴う症状の改善
- b. 生活の質（QOL）の改善・向上
- c. 健康状態の自己検査

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	誤
5	誤	誤	正

【問 17】

次の a～c の登録販売者が一般用医薬品を販売する際に、購入者から確認しておきたい基本的なポイントに関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるかを確認する必要がある。
- b. その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないかを確認する必要がある。
- c. その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるかを確認する必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 18】

次の a～c の登録販売者が一般用医薬品を販売する時の情報提供に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 必ずしも医薬品の販売に結びつけるのではなく、医療機関の受診を勧めたり、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合がある。
- b. すぐに医薬品を使用する状況にない場合には、購入者等に対して、実際に使用する際に、販売時になされた情報提供の内容を思い起こしながら、改めて添付文書等に目を通すよう促すことが重要である。
- c. 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合には、コミュニケーションを図る必要はない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問19】

次のa～cのサリドマイド訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. サリドマイドは、催眠鎮静成分として承認されたが、その鎮静作用を目的として、胃腸薬にも配合された。
- b. サリドマイドの光学異性体のうち、鎮静作用はR体のみが有するとされているので、R体のサリドマイドを分離して製剤化すれば催奇形性は避けられた。
- c. サリドマイドによる薬害事件は、世界的に問題となったため、WHO（世界保健機関）加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	正	正	正

【問20】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. スモン訴訟は、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b. CJD訴訟は、ヒト乾燥硬膜を介してクロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- c. CJDの原因は、ウイルス感染によるものである。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	正	誤	誤
5	誤	誤	正

主な医薬品とその作用

【問 2 1】

次の a～c のかぜ薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. アセトアミノフェンは、解熱鎮痛作用を目的としている。
- b. マレイン酸カルピノキサミンは、くしゃみや鼻汁を抑えることを目的としている。
- c. プロメラインは、^{たん}蛋白質分解酵素で、鼻粘膜や^{のど}喉の炎症による^は腫れを和らげることを目的としている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問 2 2】

次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

このかぜ薬に含まれている成分とその成分の配合目的に関する記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

6錠中	
イブプロフェン	450mg
塩酸ブソイドエフェドリン	135mg
マレイン酸クロルフェニラミン	7.5mg
リン酸ジヒドロコデイン	24mg
無水カフェイン	75mg

- 1. イブプロフェン・・・熱を下げ、痛みを和らげる
- 2. 塩酸ブソイドエフェドリン・・・喉の炎症を和らげる
- 3. マレイン酸クロルフェニラミン・・・鼻水・くしゃみを和らげる
- 4. リン酸ジヒドロコデイン・・・咳を和らげる
- 5. 無水カフェイン・・・頭痛を和らげる

【問 2 3】

次の a、b の () に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

アスピリン、(a)、(b)、サリチルアミドなどを総称してサリチル酸系解熱鎮痛成分という。

(a) については、一般用医薬品では、小児 (1 5 歳未満) に対してはいかなる場合も使用しないことになっている。

(b) については、1 5 歳未満の小児で水痘 (水疱瘡) 又はインフルエンザにかかっている時は使用を避ける必要がある。

	a	b
1	サザピリン	サリチル酸
2	サザピリン	エテンザミド
3	サリチル酸	エテンザミド
4	サリチル酸	イソプロピルアンチピリン
5	イソプロピルアンチピリン	サザピリン

【問 2 4】

次の記述は、ある成分に関するものであるが、その記述に該当する成分として正しいものを下の 1 ~ 5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

解熱鎮痛成分の鎮痛作用を助ける目的で、解熱鎮痛薬に配合されている場合があり、副作用として、少量でも眠気を催しやすく、重大な事故につながるおそれがあるため、服用後は、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。

1. インドメタシン
2. アリルイソプロピルアセチル尿素
3. リン酸ピペラジン
4. 塩酸メチルシステイン
5. 臭化ブチルスコポラミン

【問 2 5】

次の a～c の眠気を促す薬に関する記述の正誤について、正しい組合せを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 塩酸ジフェンヒドラミンを主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として、慢性的な睡眠障害の緩和に用いられる。
- b. ブロムワレリル尿素は、胎児障害の可能性があるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けるべきである。
- c. 柴胡加竜骨牡蛎湯さいこかりゅうこつぼれいとうは、神経質、精神不安、不眠等の改善を目的として用いられる漢方処方製剤である。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	正	正	誤

【問 2 6】

次の a～c の () に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

眠気防止薬に配合されるカフェインは、脳に軽い (a) 状態を引き起こす作用を示し、眠気や倦怠感けんを一時的に抑える効果が期待される。

また、安全使用の観点から留意すべき作用として、胃液の分泌を (b) させる作用や、心筋を (c) させる作用などがある。

	a	b	c
1	興奮	亢進 <small>こうしん</small>	抑制
2	興奮	抑制	抑制
3	鎮静	亢進 <small>こうしん</small>	抑制
4	鎮静	抑制	興奮
5	興奮	亢進 <small>こうしん</small>	興奮

【問 27】

次の a～c の鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ジメンヒドリナートは、延髄にある嘔吐中枢への刺激を抑える作用や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
- b. アミノ安息香酸エチルは、胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐き気を抑えることを目的として、鎮暈薬に配合されている場合がある。
- c. ジプロフィリンなどのキサンチン系成分は、脳の働きを抑制し、平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 28】

次の a～c の小児の疳を適応症とする製剤（小児鎮静薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 小児鎮静薬は、夜泣き、ひきつけ、疳の虫などの症状を鎮めるほか、小児における虚弱体質、消化不良などの改善を目的とする医薬品である。
- b. ゴオウ、ジャコウは、緊張や興奮を鎮め、また、血液の循環を促す作用等を期待して用いられる。
- c. 主な漢方処方製剤としては、桂枝加竜骨牡蛎湯、抑肝散、抑肝散加陳皮半夏があり、いずれも構成生薬としてカンゾウを含む。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	誤	誤

【問 29】

次の a～c の鎮咳去痰薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ノスカピンは、交感神経を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- b. グアイフェネシンは、気道粘膜からの分泌を促進することにより痰の切れを良くする。
- c. 塩酸トリメトキノールは、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑える作用を示す。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	誤	誤

【問 30】

次の a～c の () に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

気道に吸い込まれた埃や塵などの異物が気道粘膜の (a) 運動によって排出されないとき、飲食物等が誤って気管に入ってしまったとき、又は、冷たい空気や刺激性のある蒸気などを吸い込んだときなど、それらを排除しようとして反射的に咳が出る。

このように咳は、気管や気管支に何らかの異変が起こったときに、その刺激が中枢神経系に伝わり、(b) にある咳嗽中枢の働きによって引き起こされる反応である。

	a	b
1	呼吸	延髄
2	呼吸	小脳
3	線毛	小脳
4	線毛	延髄
5	線毛	大脳

【問 3 1】

次の a～c の口腔咽喉薬、うがい薬（含嗽薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 口腔咽喉薬には、去痰成分が配合されている製品もある。
- b. 桔梗湯は、扁桃炎や扁桃周囲炎で咽喉が腫れて痛む場合に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人には不向きとされる。
- c. ヨウ化カリウムなどのヨウ素系殺菌消毒成分は、まれにショック（アナフィラキシー）を生じることがある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	誤	正	正
3	正	正	正
4	正	正	誤
5	正	誤	誤

【問 3 2】

次の a～c の胃の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 消化薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐き気等の症状を緩和することを目的とする医薬品である。
- b. 制酸成分として用いられるメタケイ酸アルミン酸マグネシウムは、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もあるとされる。
- c. 健胃成分として配合される生薬には、オウバク、オウレン、センブリ、ユウタン等がある。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	正	正	誤

【問 3 3】

次の a～c の () に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

過剰な胃酸の分泌を抑える作用を期待して、(a) の働きを抑える (b) や、塩酸ピレンゼピンが配合されている場合がある。

(a) のほか、ヒスタミンも胃酸分泌に関与する伝達物質の一つであり、胃酸分泌を抑制することを目的としてヒスタミンの働きを抑える成分が配合された医薬品が (c) と呼ばれる製品群である。

	a	b	c
1	アドレナリン	ロートエキス	β ブロッカー
2	アセチルコリン	マルツエキス	H2 ブロッカー
3	アセチルコリン	ロートエキス	H2 ブロッカー
4	アドレナリン	マルツエキス	β ブロッカー
5	アドレナリン	ロートエキス	H2 ブロッカー

【問 3 4】

次の a～c の腸の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- 収斂作用による腸粘膜の保護を目的として、タンニン酸アルブミンが配合される場合がある。
- 塩酸ロペラミドは、腸管の運動を活発にさせる作用があることから、胃腸鎮痛鎮痙薬との併用は避ける必要がある。
- 次没食子酸ビスマス、次硝酸ビスマス等のビスマスを含む止瀉剤は 1 週間以上継続して使用しないこととされている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	正

【問 3 5】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ヒマシ油は、誤飲したナフタレンを速やかに排除させる時に用いられる。
- b. プランタゴ・オバタの種子又は種皮は、膨潤性瀉下成分として用いられる。
- c. 塩酸パパベリンは、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すが、緑内障の診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	誤	正	正
3	正	正	誤
4	誤	正	誤
5	正	誤	正

【問 3 6】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 腹痛が著しい場合や便秘に伴って吐き気や嘔吐が現れた場合には、急性腹症の可能性があり、浣腸薬の配合成分の刺激によってその症状を悪化させるおそれがある。
- b. 坐剤の配合成分として用いられる炭酸水素ナトリウムは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- c. カイニン酸は、蟻虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされる。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	正	正
3	正	正	誤
4	誤	正	誤
5	正	誤	正

【問 3 7】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ジャコウは、シカ科のジャコウジカ又はその近縁動物の雄のジャコウ^{せん}腺分泌物を乾燥したもので、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる作用があるとされる。
- b. ゴオウは、ウシ科のウシの雄の幼角を用いた生薬で、強心作用のほか、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- c. センソは、シナヒキガエル又はヘリグロヒキガエルの毒^{せん}腺の分泌物を集めたもので、微量で強い強心作用を示す。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	正	誤	誤

【問 3 8】

次の a～d の高コレステロール改善薬に関する記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ビタミン B2 は、過酸化脂質の代謝を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- b. パンテチンは、高密度リポ^{たん}蛋白質 (HDL) の分解を促し、また、低密度リポ^{たん}蛋白質 (LDL) が形成される過程に働いて、LDL を増加させる効果を期待して用いられる。
- c. 大豆油不^{けん}飽和物、リノール酸を含む植物油、パンテチンはいずれも脂溶性物質であるため、悪^{おしん}心 (吐き気)、胃部不快感、胸やけ、下痢等の消化器系の副作用が現れることがある。
- d. コレステロールは、食事から摂取された^{たん}蛋白質及び脂質から主に産生される。

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (a, d) 4. (b, c) 5. (b, d)

【問 39】

次の貧血用薬（鉄製剤）に関する記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1. 赤血球の形成に働くビタミン成分の1つとして、ビタミンB12（シアノコバラミン）が配合されている場合がある。
2. 鉄分は、赤血球が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なミネラルである。
3. 補充した鉄分を利用してヘモグロビンが生産されるのを助ける目的で、硫酸銅が配合されている場合がある。
4. ビタミンCは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。
5. 鉄製剤を服用すると便が赤くなることがある。

【問 40】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ルチンはビタミン様物質の一種で、高血圧における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- b. 七物降下湯しちもつこうかとうは、比較的体力があり、のぼせ気味で、顔面紅潮し、精神不安で、便秘の傾向のある人における、高血圧に伴う諸症状（のぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重感、不眠、不安）などに適すとされる。
- c. コウカには、末梢の血行を促して鬱血うっけつを除く作用があるとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	正
5	正	誤	誤

【問 4 1】

次の a～c の外用痔疾用薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 局所への穏やかな刺激によって痒み^{かゆ}を抑える効果を期待して、熱感刺激を生じさせるカンフル、冷感刺激を生じさせるクロタミトンが配合されている場合がある。
- b. 痔^じに伴う痒み^{かゆ}を和らげることを目的として、抗ヒスタミン成分である塩酸リドカインが配合されている場合がある。
- c. 痔^じによる肛門部の創傷^{こう}の治癒^ゆを促す効果を期待して、アラントインのような組織修復成分が用いられる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	誤	誤

【問 4 2】

次の記述は、日本薬局方に収載されている生薬に関するものであるが、その記述に該当する生薬を次の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

シソ科のウツボグサの花穂であり、煎薬^{せん}として残尿感、排尿に際して不快感のあるものに用いられ、利尿効果が期待される。

- 1. ヨクイニン
- 2. ウワウルシ
- 3. インヨウカク
- 4. カゴソウ
- 5. サンヤク

【問 4 3】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 卵巣で産生される女性ホルモンは月経周期に関与しない。
- b. 閉経の前後には、更年期と呼ばれる移行的な時期があり、体内の女性ホルモンの量が大きく変動することがある。
- c. エチニルエストラジオールは、長期連用により血栓症を生じるおそれがある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	正	正	誤

【問 4 4】

次の a～c のアレルギー用薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 塩酸フェニレフリンは、副交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的としている。
- b. ヨウ化イソプロパミドは、交感神経系の働きを抑えることにより、鼻汁分泌を抑えることを目的としている。
- c. メキタジンは、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	正	誤	誤

【問 4 5】

次の a～c の鼻炎用点鼻薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 塩化ベンザルコニウムは、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌又はカンジダ等の真菌類に対する殺菌消毒作用を示し、結核菌にも効果がある。
- b. クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎くわうに対して有効である。
- c. 塩酸ナファゾリンは、鼻腔内くわうに適用されるものであるが、成分が鼻粘膜を通過している血管から吸収されて循環血液中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	正	誤
5	誤	誤	正

【問 4 6】

次の a～c の眼科用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 点眼薬は、結膜囊のうに適用するものであるため、通常、無菌的に製造されている。
- b. 点眼後は、数秒間、眼瞼けん（まぶた）を閉じて、薬液を結膜囊内のうに行き渡らせる。その際、目頭を軽く押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。
- c. 点眼の際に容器の先端が眼瞼けん（まぶた）や睫毛しよまつげ（まつげ）に触れると、雑菌が薬液に混入して汚染を生じる原因となる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	誤	正
3	正	誤	正
4	誤	誤	誤
5	正	正	誤

【問 4 7】

眼科用薬に配合される成分とその作用の関係が正しいものの組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成 分	作 用
a. 塩酸テトラヒドロゾリン -----	ステロイド性抗炎症作用
b. コンドロイチン硫酸ナトリウム -----	抗菌作用
c. マレイン酸クロルフェニラミン -----	目の痒み ^{かゆ} を抑える作用
d. イプシロン-アミノカプロン酸 -----	抗炎症作用

1. (a , b) 2. (a , c) 3. (a , d) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問 4 8】

次の a～c の外皮用薬に配合されるインドメタシンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 分子内に副腎皮質ホルモンと共通する化学構造を持ち、プロスタグランジンの産生を抑える。
- b. 殺菌作用はないため、皮膚感染症に対して効果が期待できない。
- c. 喘息^{ぜん}の副作用を引き起こす可能性はない。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	正	誤	正
5	誤	誤	正

【問49】

次のa～cの外皮用薬の剤型による取扱い上の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 塗り薬は、いったん手の甲などに必要量を取ってから患部に塗布することが望ましい。
- b. 貼付剤は、患部やその周囲に汗や汚れ等が付着した状態で貼付しても、有効成分の浸透性は変化しない。
- c. エアゾール剤は、強い刺激を生じるおそれがあるため、目の周囲や粘膜（口唇等）への使用は避けることとされている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問50】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 硝酸オキシコナゾールは、イミダゾール系の抗真菌薬と呼ばれ、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- b. ぜにたむしやいんきんたむしで患部が広範囲に及ぶ場合は、自己治療の範囲を超えており、また、内服抗真菌薬の処方による全身的な治療が必要な場合もあるので、医療機関（皮膚科）を受診することが望ましい。
- c. みずむしは、足に生じ、手に生じることはない。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	正	正	誤

【問 5 1】

歯槽膿漏薬に配合される止血成分の正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. フィトナジオン（ビタミンK1）
- b. カルバゾクロム
- c. ヘパリン
- d. ポリエチレンスルホン酸ナトリウム

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (a, d) 4. (b, d) 5. (c, d)

【問 5 2】

次の a～c の口内炎用薬に用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. アクリノールは、患部からの細菌感染を防止することを目的として配合される。
- b. アズレンスルホン酸ナトリウムは、ステロイド性の抗炎症成分として配合されている。
- c. 茵陳蒿湯は、体の虚弱な人や胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	誤
3	誤	正	正
4	正	正	誤
5	正	誤	正

【問 5 3】

次の a～c の咀嚼剤^{そしゃく}である禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 嘔^かむことにより口腔^{くわう}内でニコチンが放出され、口腔^{くわう}粘膜から吸収されて循環血液中に移行するため、ゆっくりと断続的に嘔^かむこととされている。
- b. 口腔^{くわう}内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔^{くわう}内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
- c. 喫煙を徐々に減らしながら使用することとされている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	誤	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	誤
5	正	誤	正

【問 5 4】

次の a～c の滋養強壯保健薬に用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. タウリンは、肝臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドと直接反応して代謝を促す働きがあるとされる。
- b. アスパラギン酸ナトリウムは、乳酸の分解を抑える働きがある。
- c. カルシウムは骨や歯の形成に必要な栄養素であり、筋肉の収縮、血液凝固、神経機能にも関与する。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	誤	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	正
5	誤	誤	正

【問 5 5】

次の a～c の漢方の考え方及び漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 患者の証に基づく考え方とは、症状を虚証と実証とに分類し、それに応じて処方を選択する考え方である。
- b. 陰陽五行説は、人体の臓器を五臓六腑に分け、それぞれの臓器が相互に作用し合って生体のバランスを取っている、という考え方に基づいて処方を選択する考え方である。
- c. 防己黄耆湯及び清上防風湯は、構成生薬としてダイオウを含む。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	正
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	正

【問 5 6】

次の a～c の生薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 生薬は、動植物の薬用とする部分、細胞内容物、分泌物、抽出物又は鉱物などである。
- b. カッコンは、マメ科のクズの根を用いた生薬で、解熱、鎮痙等の作用を期待して用いられる。
- c. 生薬製剤は、すべからく作用が穏やかで副作用が少ない。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	正	誤	誤

【問 5 7】

次の a～c の消毒薬に用いられる次亜塩素酸ナトリウムに関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 有機塩素系の殺菌消毒成分である。
- b. 強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示す。
- c. 金属腐食性や漂白作用がある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	正	正	誤

【問 5 8】

殺虫剤に配合される成分とその分類の関係が正しいものを次の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成 分	分 類
1. フェノトリン -----	カーバメイト系
2. ダイアジノン -----	有機塩素系
3. オルトジクロロベンゼン -----	オキサジアゾール系
4. ジクロルボス -----	有機リン系
5. プロポクスル -----	ピレスロイド系

【問59】

次のa～cの一般用検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 尿蛋白^{たん}の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とする。
- b. 腎性糖尿は、必ず高血糖を伴う。
- c. 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、正常な検査結果が得られなくなることがある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問60】

次のa～cの妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日の概ね1週間前の検査が推奨されている。
- b. 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものである。
- c. 妊娠が成立していたとしても、正常な妊娠か否かについては、妊娠検査薬による検査結果では判別できない。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	誤	誤

問題の一部訂正について

設問【30】について次のとおり訂正を行った。

誤) 「次の a~c の記述について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。」

正) 「次の a~b の記述について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。」